


●最近の県内経済

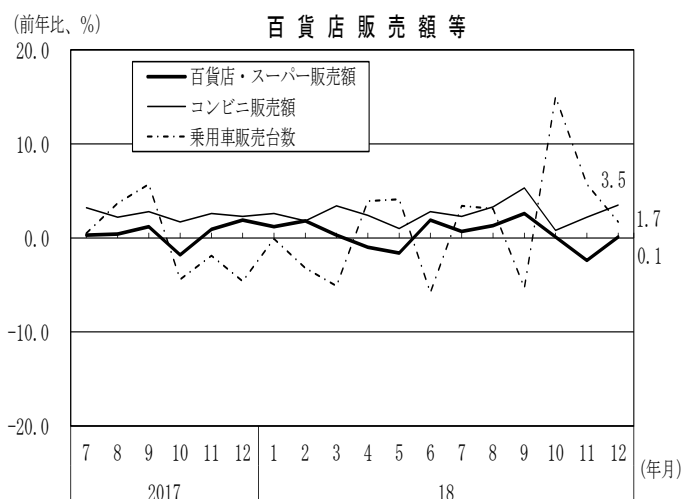
基調判断
(2018年12月を中心として)



今月の概要

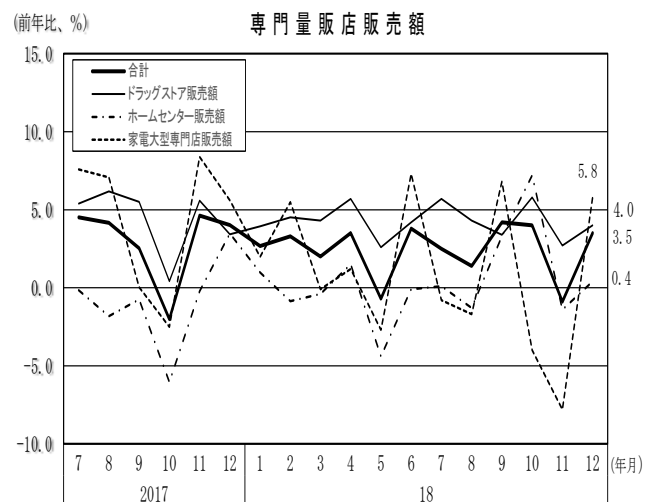
県内景気は緩やかに回復している。

1 個人消費 持ち直し



(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売店協会など

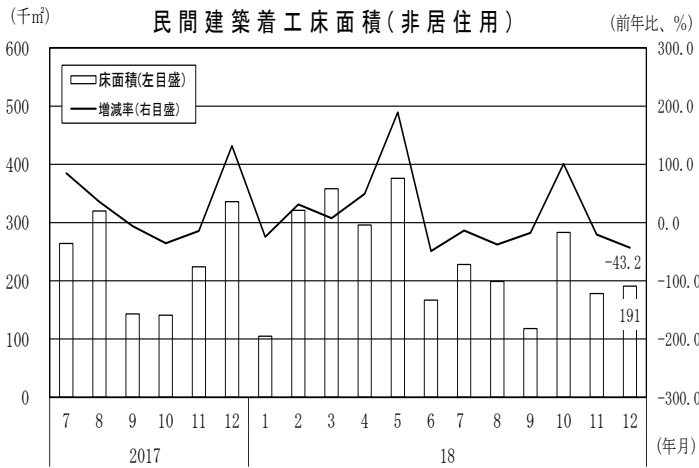
12月の百貨店・スーパー販売額(店舗調整前)は、1,066億円の前年比0.1%増と、2か月ぶりに増加した。百貨店は同3.5%減となったが、スーパーは、鍋物など季節商材が持ち直したことから、同1.1%増と増加した。コンビニ販売は、同3.5%増と堅調に推移している。乗用車販売(軽含む)は、同1.7%増と3か月連続で増加した。内訳をみると、小型車が同2.1%減少したが、普通車が同2.9%増、軽乗用車が同4.2%増となった。



(資料) 経済産業省

12月の専門量販店販売額は、784億円の前年比3.5%増と2か月ぶりに増加した。内訳をみると、ドラッグストアは356億円の前年比4.0%増と引き続き増加し、家電大型専門店は216億円の前年比5.8%増、ホームセンターは212億円の前年比0.4%増といずれも増加した。

2 設備投資 横ばいの動き



(資料)国土交通省

12月の民間建築着工床面積（非居住用）は、191千㎡で前年比43.2%減と減少した。12月までの年度累計では前年同期比2.3%減と横ばいの動き。12月単月を用途別にみると、事務所、店舗が増加したが、工場及び作業場、倉庫などが減少した。

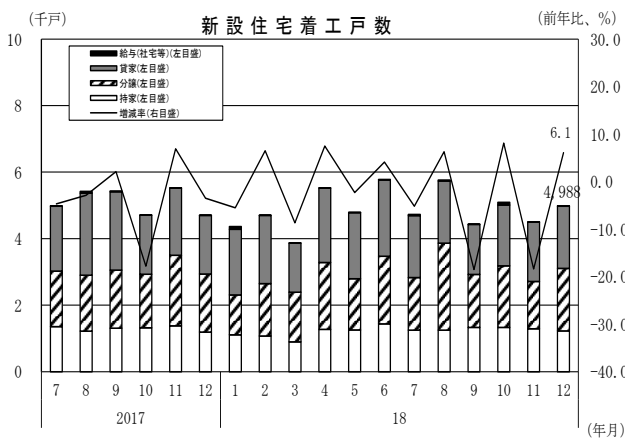
資本財出荷指数
(季節調整済)
(2010年=100)



(資料)埼玉県

11月の資本財出荷指数（季節調整済）は、88.5で前月比1.8%上昇した。

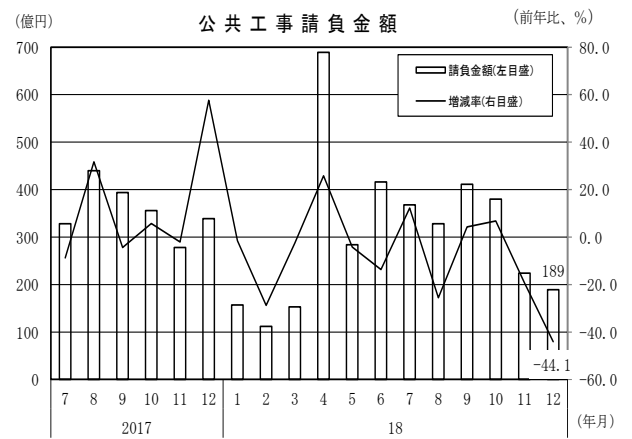
3 住宅建設 横ばいの動き



(資料)国土交通省

12月の新設住宅着工戸数は、4,988戸で前年比6.1%増加した。12月までの年度累計では、前年同期比1.6%減と横ばいの動き。12月単月を利用関係別にみると、持家が1,228戸で同3.2%増、貸家が1,868戸で同6.0%増、分譲戸建てが1,388戸で同6.8%増、分譲マンションが488戸で同9.4%増といずれも増加した。

4 公共工事 足元減少

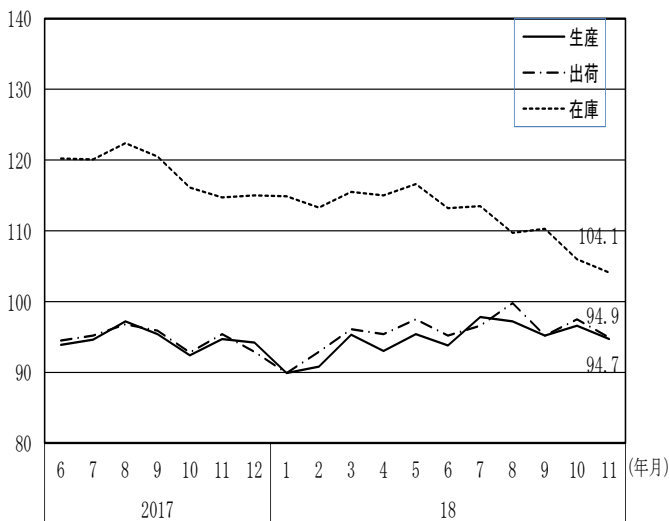


(資料)東日本建設業保証株式会社

12月の公共工事請負額は、189億円で前年比44.1%減少した。発注者別でみると、国、地方公社が増加したものの、独立行政法人等、県、市町村などが減少した。

5 生産活動 一進一退

鉱工業生産・出荷・在庫指数(季節調整済) (2010年=100)



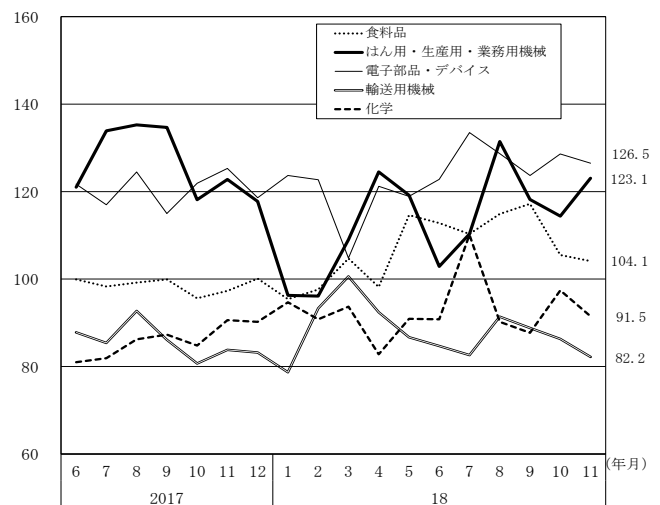
(資料)埼玉県

11月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、94.7で前月比2.0%低下した(2か月ぶりの低下)。生産用機械(半導体製造装置)、業務用機械(医療用機器)などが上昇したが、化学(医薬品)、輸送用機械(乗用車)、はん用機械(空気圧機器)などが低下した。

出荷指数(同)は、94.9で同2.7%低下した(2か月ぶりの低下)。生産用機械(半導体製造装置)、業務用機械(医療用機器)などが上昇したが、化学(医薬品)、輸送用機械(トラック、自動車エンジン)などが低下した。

在庫指数(同)は、104.1で同1.8%低下した(2か月連続の低下)。生産用機械(研削盤)などが上昇したが、輸送用機械(乗用車)、鉄鋼(小型棒鋼)、化学(印刷インキ)などが低下した。

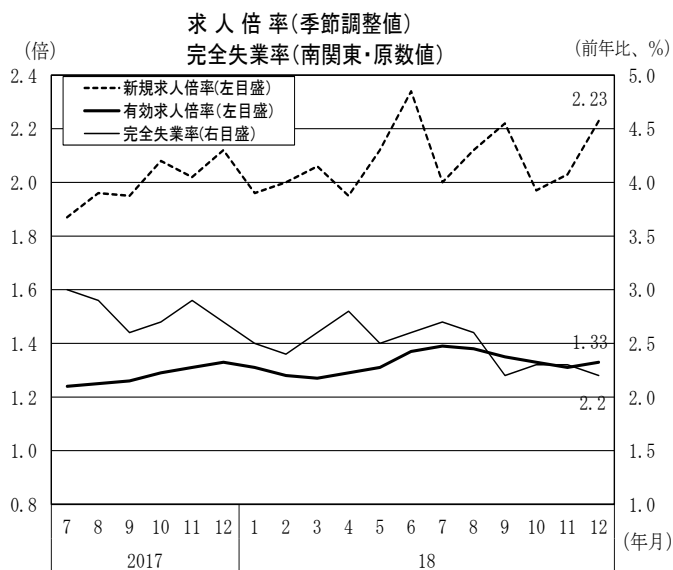
主要業種の生産指数(季節調整済) (2010年=100)



(資料)埼玉県

- ◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、104.1で前月比1.3%低下し、2か月連続の低下となった。
- ◆ はん用・生産用・業務用機械(同)は、123.1で同7.6%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。
- ◆ 電子部品・デバイス(同)は126.5で同1.6%低下し、2か月ぶりの低下となった。
- ◆ 輸送用機械(同)は、82.2で同4.8%低下し、3か月連続の低下となった。
- ◆ 化学(同)は、91.5で同6.1%低下し、2か月ぶりの低下となった。

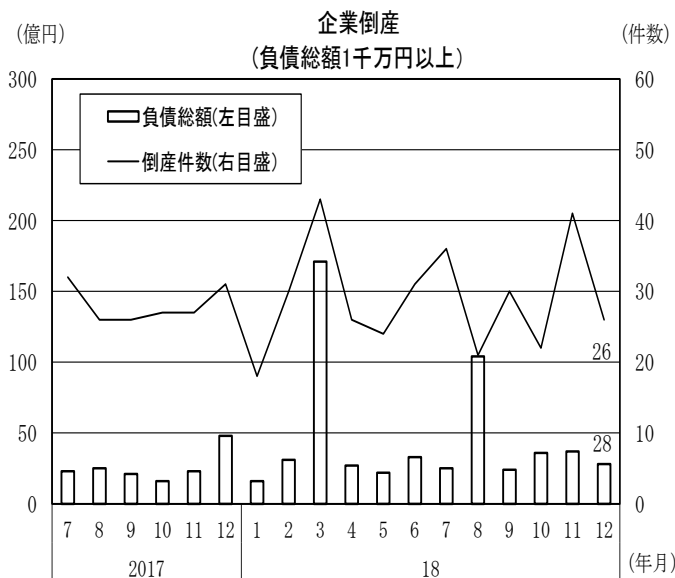
6 雇用情勢 着実に改善



(資料)厚生労働省、総務省

12月の新規求人倍率(季節調整済)は2.23倍で前月比0.2ポイント、有効求人倍率(同)は1.33倍で同0.02ポイントとともに上昇した。完全失業率(南関東、原数値)は、2.2%と前月比0.1ポイント改善した。

7 企業倒産 件数、金額とも減少



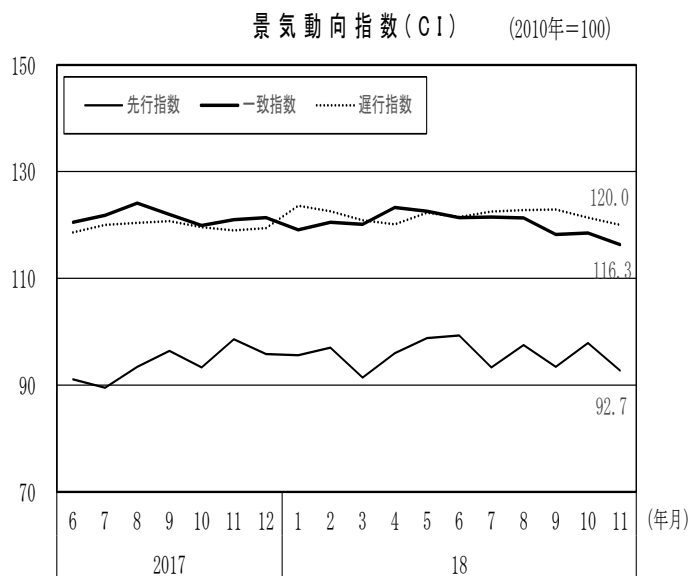
(資料)帝国データバンク

12月の企業倒産件数は26件で前年比5件の減少、負債総額も28億円で同20億円の減少となった。

業種別にみると、卸売業が7件で最多となっている。次いで建設業が5件、小売業とサービス業がそれぞれ4件となっている。主因別では、販売不振が20件で最も多くなっている。

〈参考〉

景気動向指数(CI) 悪化を示している



(資料)埼玉県

11月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、116.3で前月比2.2ポイント低下し、2か月ぶりの低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、92.7で同5.2ポイント低下し、2か月ぶりの低下となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、120.0で同1.4ポイント低下し、2か月連続の低下となった。